

体験型海外教育実地研究 第8学年 異文化理解

「Let's Compare American and Japanese Events」

教育学研究科 言語文化教育学専攻 英語文化教育学専修 北村 真理子

1 はじめに

これまで現職の英語教員として中学校に勤めてきたが、外国の子ども達を対象に授業をした経験はなかった。この研修への参加を決めたとき、久しぶりに教室で授業ができることへの喜びをはじめ、外国の子ども達に授業を行うことへの不安、昨年までの教え子たちに教材を作成させ、いかにアメリカの子ども達と交流させようかという楽しみ、新しい人々との出逢いへの期待等、様々な思いが巡ってきた。加えて、初めての経験だからこそ、必ず今後の自分の成長につながるものになるとも感じていた。授業実践はさることながら、個人旅行では体験することができない現地の学校訪問や授業参観にも興味があった。自分がこれまでに持っていたイメージと実際の子どもたちの姿や教育システムはどのように異なるのかを、自分の目で確かめてみる絶好の機会であると捉えた。実際にアメリカで過ごした10日間は、私が想像していたよりも遥かに学びが多く、充実した時間であった。

2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	宿泊地
4/26	木		渡航までの日程確認 パスポート確認 ESTA・保険の確認 授業研究テーマの設定方法	
5/18	金		授業研究テーマ案の交流	
6/7	木		学習指導案の検討	
7/2	月		学習指導案(英語版)の検討	
7/7	土		第8回学校間交流国際フォーラム	
7/8	日		2012 体験型海外教育実地研究授業研究ワークショップ 学習指導案の検討および教材・教具の作成 渡航のための諸手続き	
8/2	木		保険説明 学習指導案の検討および提出について	
8/30	木		指導案・授業の準備状況確認 報告書・教材集原稿および発表会について 渡航関係書類一式配布 渡航準備 書類(事務提出書類)提出	
9/11	火		直前打ち合わせ：報告書・教材集原稿およびアンケートについて 授業準備状況確認 準備物・集合時間等再確認 渡航についての質問等	
9/15	土	広島→成田 0745-0925 (NH3112) 成田→Washington Dulles1105-1040 (NH002) Washington Dulles→Raleigh 1245-1347 (NH7144) 空港 →City Hotel & Bistro (ウォーレン先生による送迎)		アメリカ ノースカロライナ州 Greenville <u>City Hotel & Bistro</u> 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 Tel:877-271-2616
9/16	日	(ウォーレン先生 による送迎)	各学校の先生方と事前打ち合わせ Dean の Linda 先生宅でレセプション	Greenville 同上

			ンパーティー 授業準備	
9/17	月	City Hotel→C.M. Eppes M.S. (ウォーレン先生による送迎)	学校訪問 (C.M. Eppes M.S.) ・校長先生より学校についての説明 ・校内見学, 授業見学 ・担任の先生と授業についての打ち合わせ 夕食は Ledford 先生宅で	Greenville 同上
9/18	火	City Hotel→C.M. Eppes M.S. (ウォーレン先生による送迎)	学校訪問 (C.M. Eppes M.S.) ・授業参観 (西村: Coleman 先生のクラスでカタカナの授業) ・授業実践 (北村: Joanna 先生のクラスで。約 70 分) ECU 訪問 ・Teaching Resources Center 見学 ・院生の授業に参加 夕食は ECU で, それぞれの学校の先生方とリフレクションをする	Greenville 同上
9/19	水	City Hotel →St.Peter's Catholic School → Clarion State Capital (ウォーレン先生による送迎)	学校訪問 (St. Peter's Catholic School) ・校内見学, 授業見学 Raleigh へ移動 ・自然史博物館を見学	ノースカロライナ州 Raleigh Clarion State Capital 320 Hillsborough St. Raleigh, NC Tel : 919-832-0501
9/20	木	Exploris M.S. (徒歩)	学校訪問 (Exploris M.S.) ・校内見学, 授業参観 North Carolina 州議事堂等を見学	Raleigh (同上)
9/21	金	ホテル-Raleigh (タクシー) Raleigh-Washington Dulles 1017-1124 (空港からホテルまでタクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験	Washington D.C. Washington Plaza 10 Thomas Circle, N.W. Washington D.C. 20005 Tel:202-842-1300 / 800-424-1140
9/22	土	徒歩	アメリカ文化体験 スミソニアン博物館見学	Washington D.C. (同上)
9/23 9/24	日 月	Washington Dulles - 成田 1220-1525 (NH001) 成田-広島 1630-1805 (NH3113)		

3 実地研究授業

3.1 単元名 第8学年 「Let's Compare American and Japanese Events」

3.2 事前準備

① 単元設定の理由

本授業のねらいは、生徒たちが日米の祝祭日の比較を通して、自国の文化と他国の文化に興味・関心をもつことである。また、日本の中学生がアメリカの生徒とのコミュニケーション

ンを通して英語を学ぶことの意義・楽しさを実感してくれること、アメリカの中学生が日本に興味をもって視野を広げてくれることを願い、この単元を設定した。

② 準備したこと

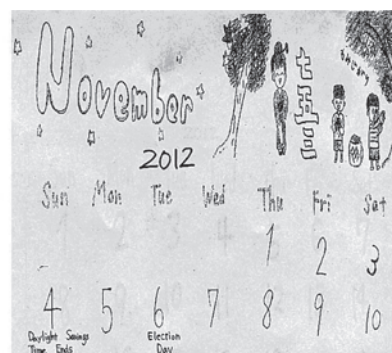
8月16日(木)に、私が在籍する佐賀県のK中学校で希望する生徒を集め、教材作りを行った。内容は、日本の祝日や文化に関するクイズ作り、12か月分のカレンダー作り、手紙書きである。クイズ作成後は、そのクイズと答え、クイズに関する説明を暗記させ、ビデオカメラの前で発表させた。撮影した画像は、プレゼンテーションソフトを使って編集し、授業中に使用できるようにした。また、導入部で使用する1~12までの数字のピクチャーカードやグループ分けのカード、授業のルールカード等も作成した。



【図1 数字のピクチャーカード】



【図2 生徒が作ったクイズの映像】



【図3 生徒が作成したカレンダー】

3.3 学習指導案

Lesson Title: Let's Compare American and Japanese Events

Lesson Author: Mariko Kitamura

Date: September 18th, 2012

Grade levels: I would like to teach 7/8th grade

Subject: Culture

Description:

In this class, students will compare American and Japanese events using a calendar which Japanese students made. Japanese students prepared some questions about Japanese culture via a PowerPoint presentation, and American students will answer those questions in groups. They can then write new information on the calendar, and each student will make their own original. At the end of the class, they will write letters to Japanese students. I will bring the letters back to Japan and share them with students.

Objectives: As a result of this activity, students will be able to:

1. Think about their own culture and recognize the differences and similarities with Japanese culture.
2. Have fun communicating with Japanese students.

Materials, Resources, and Technology:

- calendars • quiz • letter
- PC • projector • pen
- the paper to write messages to Japanese students
- picture cards • prizes



Procedure:

	Activities	Teacher's instructions	Materials
1	Greeting	• Introduce myself and tell them what they will learn in this class.	<ul style="list-style-type: none"> • Pictures • projector, PC
2	Learn numbers from 1 to 12 in Japanese and practice them	• Teach students how to pronounce Japanese numbers using the picture cards.	<ul style="list-style-type: none"> • picture cards
3	Glance through the calendar and check the U.S. holidays/ events all year round.	<ul style="list-style-type: none"> • Distribute a calendar which Japanese students made to each student (On the calendar, only American events are written) • Tell the students ask each other which holiday/event they like the best. • Ask students several questions about the U.S. holidays/events. 	<ul style="list-style-type: none"> • calendars
4	Answer the questions in groups and write the information on the calendar.	<ul style="list-style-type: none"> • Show students a video clip of Japanese students asking some questions about events in Japan • Give a present to the group that gets first prize 	<ul style="list-style-type: none"> • calendars • projector, PC • marker pens • prizes
5	Write letters to Japanese students who made the calendar.	• Give some advice if they are at a loss.	<ul style="list-style-type: none"> • letters from Japanese students • message paper • marker pens
	Greeting		

3.4 授業の実際

(1) 自己紹介の後、授業の目標である「日本とアメリカを比較して、お互いの文化の類似点・相違点を学ぶこと」を確認した。

- (2) ピクチャーカードを使用して、日本語で数字をどう表現するかを導入した。英単語をベースにピクチャーカードを作成していたため、クイズ形式で質問し、生徒が答えを予想できるようにした。例)「蚊にさされた時、どのように感じるか」→「itch」→「1」
- (3) 1～12までの数字が、身の回りのどのような所で使用されているかを生徒に質問し、カレンダーを使用して日本とアメリカの文化の比較をする活動につなげた。
- (4) 日本の生徒が書いたカレンダーを見て、好きな祝祭日についてグループで話し合わせた。自国の祝祭日を振り返ることで、日本の祝祭日との比較をしやすくすることを目的とした。
- (5) 日本の生徒が出すクイズに、グループ対抗で答える活動を行った。プレゼンテーションソフトに組み込んでいた画像が上手く動かず、生徒が出すクイズを私が読み上げる形となった。クイズの得点は生徒に得点カードを引かせ、毎回得点が異なるよう工夫した。クイズの回答や私の説明を聞いて得られた新しい情報は、カレンダーに書き込むよう生徒に指示をした。
- (6) 時間が足りずクイズを途中で終えた。2時間授業をしてもよいと言われていたため、生徒とインタラクションを取りすぎてしまった所に課題があった。優勝グループに日本語で書いた賞状と景品を渡した。また、全員の積極的な取り組みを称え他のグループにも景品を渡した。
- (7) クイズ終了後は、互いの文化の類似点や相違点をグループで話し合った後で、日本の生徒からの手紙を読ませ、返事を書かせる予定であった。その活動は Joanna 先生にお願いした。

3.5 考察

自分が楽しんで授業をすると、生徒も楽しく授業に参加してくれること、一人ひとりの生徒とのインタラクションが生徒の学習への意欲を高めるきっかけになることを改めて実感した。今回は特に飛び込みの授業であったため、誰一人生徒を知らなかったが、事前に Joanna 先生から気になる生徒を教えてもらうことができた。その生徒と積極的にインタラクションをとることで彼の表情や参加態度が変化したことから、生徒理解の重要性も再認識した。

活動の質に関しては、大きな課題が残った。まずは、グループワークで良かったのかどうかである。クイズの最初の数問は、答えをグループで話し合う前に、自分の意見を述べようとしたくさんの生徒が挙手をしてくれた。Joanna 先生に何うと、生徒たちはグループワークにはあまり慣れていないとのことであった。今後必要になるスキルであるため、いい練習になったと言われたが、生徒の実情にあったのかが疑問である。またクイズの回答に関しても、時間短縮のために全て選択肢を準備していたため、生徒の自由な発想や発言の機会を制限してしまう結果になったように感じている。生徒とのインタラクションにおいても、生徒からの答えや質問がある程度予想できるものになってしまったために、自分の英語力を試す機会を制限したような形になってしまった。ただ、授業の締めくくりが中途半端なものになってしまったにも関わらず、たくさんの生徒の笑顔を見ることができたことや、最後に「Good-bye, Mariko sensei」と私の名前を覚えて挨拶してくれた生徒がいたことは、非常に喜ばしいことだった。



4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

子ども観

幼稚園児が、みんなの前で自分の考えを一生懸命に述べている姿を見た時、アメリカの子ども達に自己表現力が豊かな子が多いのは、その部分が小さい頃からよく鍛えられているからと

ということを感じた。ならば生徒にどのような力をつけさせたいのか、どのように育ててほしいのか、教師がしっかりと目標とする生徒像を意識して、その目標にもとづいた教育実践を行うことの必要性を感じた。

授業観

教師が教え込む授業ではなく、生徒主体の活動ありきの授業は生徒の学習意欲を高める。教師は、授業のファシリテーターとして一つ一つの活動に意味を込めると共に、活動同士のつながりをスムーズにすることにも意識を向ける必要がある。また、教師自身が楽しめる授業をすることは、クラスの雰囲気や授業のリズムづくりにもつながる。どの生徒にも一時間に一度は活躍の場や達成感を感じる場を与えることを目標として、授業を組み立てられたらと考える。

教育観

子どもたちにはそれぞれ個性があり、学習するスピードやレベル、興味、様々なものが異なる。一斉授業でそれぞれの子どもにあった指導をするためには、教師の工夫や配慮が不可欠である。訪問した学校では、同じ教室にいても、グループを分けて異なる活動に取り組ませたり、生徒がそのレベルに達していたら他の課題を与えたりといった工夫がなされていた。また、生徒が自分で自分の課題を見つけて取り組み、自律した学習者を目指すカリキュラムが組まれていた学校もあった。一人ひとりの子どものニーズをきちんと見極めてサポートし、その子もっている可能性を十分に引き出すという教師の役割を、明示的なモデルをもって示してもらった。これまで私が行ってきた授業スタイルに固執せず、新しいものを追求し取り入れようとする柔軟な姿勢を、いかに自分の中に構築していくかという課題が出てきた。

4.2 自分自身についての変容

久しぶりの授業ということもあり、非常に楽しかった。生徒がいてこそその教師、授業があつてこそその教師ということ再認識し、教師である自分を見つめ直すことができた。また、英語力やパソコンを使いこなす力を磨き、今後の教育活動につなげたいという意欲が高まった。

4.3 グローバルマインドに関する変容

今回の研修でアメリカの人達の温かいホスピタリティーに触れ、人との出逢い、つながりをもつことの素晴らしさを感じた。教師が学び続けようとする姿はもとより、人とのつながりを大切にする姿を生徒に示すことは、1つの貴い教育の形であると考え。可能であれば、現場に戻ってからも C. M. Eppes M. S. の先生や生徒との交流を続け、生徒たちの英語力向上だけでなく豊かな心を育てることに貢献していきたい。

5 おわりに

帰国後に、アメリカの生徒から日本の生徒にあてた返事が送られてきた。日本の生徒に手紙を見せたら、「もっと英語を勉強したい」「日本のことももっと知らなければ」というような感想が返ってきた。生徒たちに英語を学ぶ意義・楽しさを感じてほしいという願いが伝わったように思う。今後も経験から学ぶ姿勢を大切に、学んだことを生徒に還元していきたい。

たくさん学びを得られたこの研修が無事に終えられたのは、ご指導していただいた先生方、現地の先生方、GPSCの関係者の方々のお力添えがあつてこそでした。心より感謝申し上げます。